

第2回 名張市立薦原小学校 学校運営協議会 報告

1. 開催日時 令和4年 8月 18日(木) 午後3時 ～ 午後4時
2. 開催場所 薦原市民センター 多目的ホール
3. 出席者数 出席委員 10名 欠席委員 1名 説明員等関係者9名
4. 協議内容

学校運営協議会委員の皆さんと教職員とのつながりを深めるため、懇談会をもちました。

【テーマ】

「ありがとう」や「あいさつ」が進んで言える子を育てるために何ができるかを考えよう！

【内 容】

- ・1学期の学校支援の振り返り
- ・2学期以降の取組について



【主な意見】

〈あいさつについて〉

- ・地域ぐるみで子どもを見守ってくれていることを子どもたちも感じている。
- ・子どもたちは、ボランティアの方をよく知っているからこそ挨拶をしている。
- ・交差点での見守りでは、わたしたち大人から声掛けをするよう意識している。
- ・決まった子だが、大きな声であいさつできる子もいる。
- ・あいさつはコミュニケーションのスイッチであり、地域とのつながりでもある。大人から挨拶をし、あいさつの大切さを伝えていきたい。
- ・地域とのつながりができて、大人側も「交通ルールに気を付けよう」という意識をもつことができ、相乗効果が生まれている。
- ・登校中、低学年の子がこけてけがをした時に、高学年の子が優しく手当をしている様子を見て、上の学年の子が下の学年の子を守るという雰囲気が培われてきているんだと嬉しく思った。
- ・マスクで顔が隠れており、声が聞こえにくく、表情がわかりづらい。
- ・マスクを着けることが当たり前になっているのが心配。

〈学校支援について〉

- ・デジタルだけではなく、人とのつながりを持ったり実際に体験したりしていくことが子どもの成長にとって大切だと思う。
- ・実際に体験することが大事。けがをしたり危ない目にあったりすることから学ぶことが多い。最近はその機会がほとんどない。川遊びなど水の危険を学ぶ機会がないので、夏休みに「あゆつかみ」の行事を計画したが、中止になり残念。
- ・自然や工業団地など豊かな資源があるので、活用してほしい。

- ・「グングン先生」では、子どもたちがわからないことを聞いてくれる。やり方を教えてできた時にはとても喜んでくれるので、自分もうれしくなってやりがいがある。
- ・薦原の昔話がまとめられているので、ぜひ活用してほしい。
- ・センターの職員が草刈りや花壇の整備をするので、いつでも言ってほしい。
- ・困ったときには市民センターに相談しやすく、大変助かっている。

〈その他〉

- ・子どもたちは、地域の方に大切にされていることを常を感じており、安心して学校生活を送ることができている。
- ・薦原の子どもたちは地域の宝だと思っているので、大人みんなで大事にしていきたい。
- ・子どもたちと関わることで、自分たちも元気になれる。
- ・ボランティアの活動は本当に楽しい。



子どもたちには、いろいろなことを体験させてあげたい。失敗から学ぶことは大切なこと。

薦原の子どもたちは地域の宝物です！



まずは、わたしたち大人から子どもたちにあいさつをして、その大切さを伝えていきましょう！

交差点では大人から声かけするようにしています。

子どもたちは、地域の人たちに大切にされていると感じ、安心感をもっています。

子どもたちと関わることで、たくさんの元気をもらっています。